

第1回委員会における委員からの指摘を踏まえ、以下の箇所は修正を反映して公表しております。

ページ	項目	修正後	修正前	修正理由
P.6	想定される要因	長期における砂浜の著しい消失に加え、 <u>昨年の累次の台風来襲など</u> による高波が護岸基礎部に <u>短期的に</u> 作用したことが要因となっており、空洞が発生・拡大したと考えられる。	砂浜の著しい消失に加え、昨年の累次の台風来襲による高波が護岸基礎部に作用したことが要因となっており、空洞が発生・拡大したと考えられる。	短期的、長期的な視点両方を行っていくことが重要との指摘より修正
P.15	堤防の標準断面	(一体構造の定義を注釈に記載) ※1 ここでは、 <u>一体構造とは、コンクリート護岸(波返し工)と鋼管杭等がコンクリートにより密接している構造とする。</u>	(一体構造の定義の記載なし)	一体構造の定義を記載した方が良いとの指摘より修正
P.17	今後の委員会の進め方(検討の方向性)	長浜工区で空洞が発生したことに鑑み、検討対象区間において、 <u>砂浜の長期的、短期的なモニタリングを行い、空洞の発生を未然に防ぎ、可能な限り空洞の発生を抑え、</u> やむを得ず発生した場合には、早期に発見することを目的に、実施内容の技術的・経済的側面等を含めて、今後のより良い管理方法を検討する。	長浜工区で空洞が発生したことに鑑み、検討対象区間において、可能な限り空洞の発生を抑え、やむを得ず発生した場合には、早期に発見することを目的に、実施内容の技術的・経済的側面等を含めて、今後のより良い管理方法を検討する。	短期的、長期的な視点両方を行っていくことが重要との指摘より修正
P.17	今後の委員会の進め方(検討手順(イメージ))	砂浜の <u>長期的、短期的</u> 変動を把握する仕組みの検討	砂浜の変動を把握する仕組みの検討	短期的、長期的な視点両方を行っていくことが重要との指摘より修正